

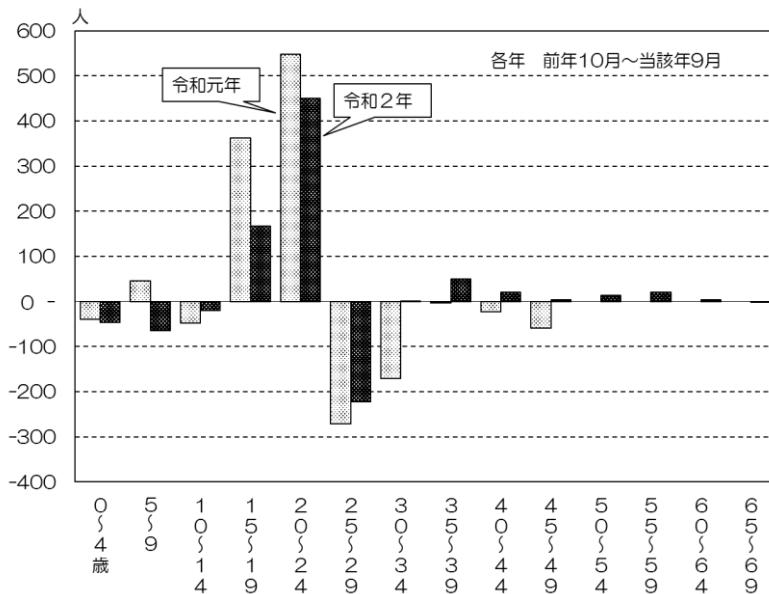
(千種区 18.18Km²)

統計なごやweb版 <http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/67-5-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

千種区の5歳階級別社会増減数の推移

今回は愛知県人口動向調査（名古屋市分）に基づいて、本区の年齢5歳階級別社会増減数（転入数－転出数）をみていきます。

図1: 年齢5歳階級別社会増減数（令和元年と令和2年の比較）

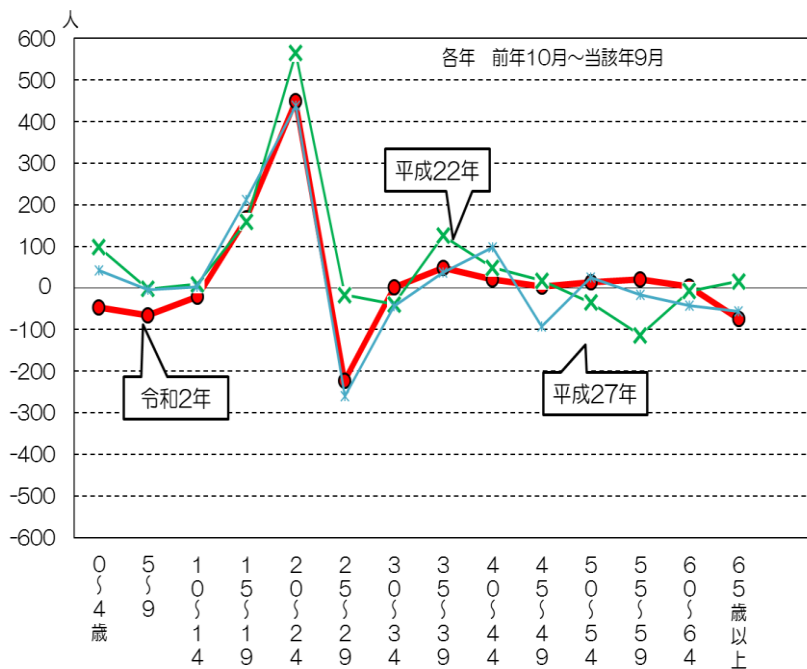


人口増
↑
↓
人口減

令和元年と令和2年の年齢5歳階級別社会増減数（図1）を見てみると、いずれも15歳～19歳、20歳～24歳で社会増（本区への転入超過）がみられます。千種区は大学が多く、在学中の年齢である15～19歳、20～24歳の範囲で本区への転入が多くなっていますが、令和元年よりも転入数は減少しています。

25～29歳では就職のために区外へ転出する傾向がありますが、県外移動自粛の影響か、令和2年は30代以降の転出はほとんど見られません。

図2: 年齢5歳階級別社会増減数の推移



人口増
↑
↓
人口減

平成22年から令和2年までの5年ごとの年齢5歳階級別社会増減数の推移（図2）をみてみると、15～24歳に本区に転入し、25～29歳で転出するという傾向に大きな変化はみられません。20～24歳の社会増減数は、平成21年から令和元年にかけて10年間、各年500人以上の社会増傾向にあります。一方で、25～29歳の社会減傾向は令和2年に大きくなっています。

また、その他の年代について、10年間を比較すると、社会増減数は30代以降についておおむね減少傾向にあります。